

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	3490900051		
法人名	有限会社 トツツ		
事業所名	グループホーム笑顔くい		
所在地 (電話番号)	広島県三原市久井町下津1614-1 (電 話) 0847-32-5143		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年3月20日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 10 人	

(2)建物概要

建物形態	単独/併設	新築/改造
建物構造	木造	
	2 階建ての	1・2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(230,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	月5000円づつ償却し、3 年以後は返却なし
食材料費	朝食 400 円 夕食 550 円 または1日当たり 1,500 円	昼食 550 円 おやつ 円	

(4)利用者の概要(3月 12日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低 73 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	くい市民病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな山間の田園風景の中に立地し、穏やかに暮らせる自然環境とゆったりと設計された居住環境がここにはある。地域とのつながりも密接で人的環境にも恵まれている。開設1年に満たないが運営推進会議には関係各所から多く参加していただいております。情報提供と同時に多くの協力を頂ける関係作りがされている。地域行事や事業所行事へ利用者・家族・地域の方々が相互に参加しあうなどの交流を早期に実現している。職員は「ひだまりのような暖かさ」とほのぼのとしたやさしさが溢れる空間作り」を理念とし、利用者への尊敬と優しさの念を持って接している。普通の温かい家庭のように、食事を職員共々楽しんだり、掃除などの家事を一緒に行ったり、利用者のペースで趣味や生活の支援を行うなど、生活の張り合いと喜びを引き出せる環境を作り出している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての評価である。 ② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員の意見をまとめて自己評価を作成しており、職員全員の自己評価への理解がうかがえる。自己評価を反映する取り組みはこれからである。 ③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市担当者、自治会、民生委員、包括支援センター、認知症家族団体、地域代表、利用者家族等のメンバーで2ヵ月毎に開催している。議員、消防、警察の方々の参加をいただくこともあり、会議を利用した交流を盛んに行っている。会議への参加の呼び掛けも関係各所へ積極的に行っている。 会議ではメンバーからご指導をいただいてサービスの改善に活かしたり、周辺道路の危険箇所の改善やベンチを設置していただくといった援助協力もいただいている。 ④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、病院へ付き添って診察を受け、その診療結果報告とともに近況等と一緒に家族へ報告している。報告は家族や状況によって、面談・FAX・電話・メールを利用して行っている。意見等もこうした家族との接触機会にいただいている。事業所や第三者機関の苦情受付先も重要事項説明書や玄関に掲示して告知している。ご意見箱もこれから設置する予定である。 ⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事「うつつし祭り」や保育所の運動会、敬老会などに参加させていただいている。また 地域の方々にホーム主催の秋祭りに参加いただいたり、地元ボランティアの方々に寸劇や手品をしていただくなど、地域交流を盛んに実践している。
------	--

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業理念「人と人との絆を大切に・・・」を基本として、ホーム独自の理念「ひだまりのような暖かさとほのぼのとしたやさしさが溢れる空間作りを目指します」を全職員で作り上げ、利用者や関係者との良い関係を深めるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所やリビングルームに理念を掲示して、いつも目に触れ意識できるようにしている。ミーティング・勉強会では理念をよりどころに打ち合わせや学習を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事「うっしっし祭り」や保育所の運動会、敬老会などに参加させていただいている。また 地域の方々にホーム主催の秋祭りに参加いただいたり、地元ボランティアの方々に寸劇や手品をしていただくなど、地域交流を盛んに実践している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、職員から出た事実や意見・反省を自己評価にまとめている。初めての自己評価・外部評価を経て、今後具体的な取り組みを行うところである。		2ユニット共通の自己評価となっており、ユニット毎の評価とされることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者、自治会、民生委員、包括支援センター、認知症家族団体、地域代表、利用者家族等のメンバーで2ヵ月毎に開催している。議員、消防、警察の方々の参加をいただくこともあり、会議を利用した交流を盛んに行っている。ご指導やご協力もいただいてサービス向上に活かしている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設初年度ということもあり、法令や制度の遵守・運用など行政からの指導や情報交換は頻繁に行って具体的なサービス提供に役立っている。運営推進会議には毎回出席いただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者は毎月、病院で診察を受け、職員が付き添うが、この際に診察状況と合わせて近況報告を行っている。報告手段に、面談・メール・FAX・電話を家族や状況に合わせて使い分けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等相談窓口として、事業所・外部機関の連絡先が重要事項説明書に明記され、玄関等にも掲示されている。また、家族との連絡機会には意見を聞くように努めており、意見があれば管理者に報告し運営に反映している。	○	御意見箱設置の必要性は認識されているが 実際はまだ設置されていない。早期の設置が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員から支援が受けられるように配置を考慮している。また、馴染みの職員は複数となるように努めており、移動や離職によるダメージを軽減している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループで研修委員会を設置して研修会を設け、職員を参加させている。事業所内でも年間研修計画を立てて教育を行っている。資格取得を職員に勧めたり、社外研修にも積極的に参加させるなど、職員の育成やトレーニングに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内の各事業所で開くイベントや勉強会で職員同士の交流を持ったり、他法人との相互訪問を管理者と主任が行うなど、交流を通じたサービス向上の取り組みを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談時には併設の小規模多機能サービスも合わせて案内をし、馴染みながら利用を開始するための相談をしている。入居が決まるとさらに電話連絡などで状況把握に努め、利用者の入居前には 利用者の家具や馴染みの品々を持ってきていただいて家族による部屋作りをしていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、料理、洗濯物の取り込みなどを希望する利用者に家事を手伝っていただいている。また料理では食材の切り方・味付けの指導を受けたり、畑仕事の仕方を教えていただくなど、共に生活を支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族より、日頃から日常生活への希望を伺うようにし、意向の把握に努めている。日常の起床・就寝・食事・入浴などのタイミングは利用者の声に合わせて柔軟に支援している。意思表示のないときは、自然な会話の中で希望を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	診療状況・生活歴や意向の把握・介護記録など、ケアに必要な情報収集を行った上で細やかな介護がなされているが、一方では介護計画書への記載が少なかったり家族のサインの無いものが多くみられる。	○	重要事項説明書に説明してあることでもあり、早期に全利用者の介護計画書記載を確実にし、家族との確認と家族のサインをいただくなど課題の明確化を急ぐことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングと3か月毎の見直しを行っている。介護計画書の整備は早急に望まれる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員が利用者の通院に付き添って日常の様子を医師に説明したり、遠方のかかりつけ医の受診支援を行うなど、出来ることを最大限行っている。急な希望でも外出をかなえて上げるような柔軟な支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を確認して、希望のかかりつけ医の受診支援を行っている。 受診の際には職員が同行して利用者の状況を医師に説明し、医師から適切な診療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医学的管理・処置が必要になった際は入院していただく方針であることを利用者・家族に説明している。 看取りケア等については現在は検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報はカギのかかる保管庫に保管している。 利用者には敬意を持った言葉遣いで接しており、場所や状況でプライバシーに配慮して言葉遣いを変えることもある。 ミーティングで注意を促し、心がけるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の起床・就寝・食事・入浴などのタイミングは利用者の声に合わせて柔軟に支援している。裁縫・編み物・囲碁などの趣味や外出など利用者1人ひとりの希望に沿って支援している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて、料理を協力して作ったり、自然な介護をしながら一緒に食事している。献立は職員が考え、利用者の必要に応じて調理方法や分量を調整して、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する日や時間、夕食後希望すれば夜の時間帯でも入浴の支援を行っている。入浴チェック表で入浴頻度を把握しているが入浴は強要することなく、会話によるやりとりや声かけのタイミングなどを工夫して利用者からの希望を待ち、入浴していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望で掃除や料理などの家事を一緒に行って生活の張り合いや役割を感じていただいたり、畑作り・裁縫・編み物・パソコンの囲碁ゲーム・音楽鑑賞などの利用者ごとの趣味を支援している。また、毎朝のラジオ体操では希望で体を動かす機会も設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣のデイサービスへ出かけたり、近くのコンビニや畑周辺へ散歩に出かけたり、施設の駐車場へやってくる移動式パン屋へ買い物に出るなど、日常的な外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員はカギをかけないケアを理解しており、日中はカギをかけていない。職員の見守りの他に、事業所が地域でよく認知されており、地域の方々の見守りもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の動きは施設全体の消防計画として作成している。昨年の10月、12月に非難訓練・消防訓練を消防署にも来ていただいて実施した。訓練は今後も年2回の頻度で実施することになっている。電話口には緊急時の連絡手順を掲示して、緊急対応の学習や意識付けに心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックと記録を毎食行っている。水分摂取は健康管理上必要な利用者についてだけ介護記録に記録するようにしている。現在、水分摂取を強要することがないようにしつつも、水分摂取の記録は取るように準備・検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には手作りの紙作品や飾り付けがされ、季節の花も飾られている。畳のスペースとこたつもあり、普通の家のような居心地となっている。リビングは静かで明るく十分な広さがあり、ゆったりくつろげる空間となっている。来客時には リビングとは別の応接セットがあり、ゆったり利用できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやいす・収納・ベッドなど、馴染みの家具を持ち込んで飾り付けもされた部屋作りがされている。利用者によっては 畳を敷く工夫もされ、利用者が居心地よく過ごせる配慮がされている。 間違っって他人の部屋に入らないようにわかりやすい表札を入口につける工夫や配慮もされている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人としての理念を基本とし、当ホーム独自の理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員一人ひとりの理念に対する理解・認識を常に自覚するように、個別の勉強会も行いながら日々のケアの中で理念の具体化と徹底を目指している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議にはご家族へ声をかけ、順に出席していただき当ホームのサービス内容を知っていただくようにしている。	○	当ホームから地域へ顔を出すことは、行事の時程度であり、地域へ語る場を今後は作っていきたい。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の散歩の際や買い物の際は積極的に挨拶や会話を心がけ行っている。	○	気軽に地域の方が立ち寄られる事実がないこともあり、今後は更なる地域との関係性を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事には必ず参加しており、地域の方から声をかけて頂いている。また、当ホームの企画する行事にも地域の方を誘い参加していただいている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	社会福祉協議会の主催による、地域作りの参加を職員は積極的に参加している。法人理念にもある「地域の絆を大切に」を心がけ、地域に貢献できる話し合いをしている。	○	地域に向けた勉強会やサロン等に出向き、当ホームの趣旨や取り組みを伝えていきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員へ説明し、自己の振り返りに役立てている。	○	今回初めての外部評価を受け、更なる改善や具体的な取り組みを職員と話し合いながら進めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に2月に1回開催されており、その時期に議題へあがった地域の方々(消防・警察)へお越しいただき意見交換を行っている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	法令遵守や制度の理解についての疑問があれば電話連絡できる体制を整えている。運営推進会議へは毎回出席いただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	対象者がいないこともあり、権利擁護並びに成年後見制度等の勉強会はまだできていない。	○	毎月開催される勉強会に今後はこの項目も取り組んでいく予定である。社会福祉協議会の「かけはし」職員へ講義の依頼をする予定。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月一回の勉強会へもこの項目は取り上げ勉強会を行っている。また職員へのストレス度も考え、定期的に職員の気持ちに引き出せる体制作りを行っている。		
4 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書を用いて、相手の理解度を確認しながら契約を結んでいる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情受け付け(ご意見)箱の設置を行い、運営推進会議では外部での苦情内容があれば報告する体制を整えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時や電話連絡など、個々の状況に合わせた報告を行っている。金銭などについては随時電話連絡をするようにしている。	○	当ホームの新聞作りがまだ始められておらず、入居者様の暮らしの様子が反映される新聞作りをしたいと考えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族との接触時に、そのつど意見の確認を心がけており、意見があれば反映している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度ホーム内で職員会議を開催し、意見交換並びに方向性の確認を行うようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況や体調の変化に伴い、話し合いを設け時間調整や人員体制の調整を図っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者が馴染みの職員による支援を受けれるように配慮し、配置を行っている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人として研修委員会が設立されており定期的 に開催されている。また当ホーム内においても、 年間研修を計画し取り組んでいる。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人グループ内の各事業所との交流(イベン ト・勉強会)へ定期的に参加できている。また他 法人の見学へ行ったり来てもらったり交流を深 めたり開拓する努力をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員個々の話を聞くことができる体制を確立し ており、各自個人ノートを所持しその活用も行 いストレスケアをおこなっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	他事業所との交流や外部研修などへ積極的に参 加してもらい自己のスキルアップを図るととも にモチベーションサポートに努めている。	○	勤務状況の都合や個々の事情により、すべ ての職員が参加している状態ではなく、 個々の話し合いで意見交換し合いながらモ チベーションサポートしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談があれば、初回面談として本人と会い直接話をする体制を整えている。また利用に至るまでの経過の際に、電話連絡するなどして状況把握に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初回相談の際は、なるべく傾聴に心がける体制を作っている。また利用に至るまでの経過の際にも、電話連絡するなどして状況把握に努めている。	○	担当者が不在の場合にも、他職員ができる範囲での対応ができる組織作りに心がけていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	併設として小規模多機能型サービスがあり、そちらのサービスも踏まえたお話をさせて頂いている。また、他の事業所との連携を図り情報提供を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居が決まれば、まず部屋作りを家族にしている。	○	本人の状態や状況により、本人が安心して納得して入居するケースは少ない中でも、馴染みの空間作りや刺激の強弱を考えたホーム作りを心がけていきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活を大切にし、その方の生活の継続性の観点から支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状態を確認しながら、家族へ連絡し面会へ来ていただいたり、外出などの配慮をしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人・家族それぞれ生活歴のアセスメントを行い、関係性の理解に努めポイントを見極め支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が一番安心する場所の把握に努め、その場所を引き離さない支援に努めている。また家族の協力により、希望された外出支援をおこなっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の性格、疾患、地域性や歴史などを踏まえて関係性に努めている。それによって個々の性格や調子に合わせて、独りの時間も大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院して退所された方へのお見舞いへ定期的に伺い家族とも経過報告を受けるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族より、日常生活についての希望を伺い、その希望に添えるように支援をおこなっている。	○	起床・就寝・食事・入浴時間など本人の声に合わせて随時柔軟に対応しているが、常に日々の自己決定に努めていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式をアレンジしたアセスメントシートを用いて、入居前後の状況に応じて聞き取りを、本人や家族からも行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活状況を毎日記録し、状況の変化の把握に努めている。自立支援の観点より法人内の専門職と連携・協力し残存能力の見極めを行っている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケースカンファレンスを開催し計画書を作成、本人もしくは家族にサインをいただいている。	○	家族がケースカンファレンスに参加されない場合も多いので今後の課題として取り上げていきたい。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月に一回のモニタリングを行い、計画の見直しをし本人または家族へサインを頂いている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努め、申し送りノートも活用し、実践やケア計画に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設事業所のメリットを活かし、行事などはデイサービスと合同で行ったりしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議等でインフォーマルなところへも声をかけ支援できる体制を作っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	在宅復帰に向けての取り組み時は、情報提供を含め協力し行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見人制度やかけはしについての相談の事例があり、今後の協働についても引き続き行っていけるように努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に本人及び家族の希望を確認し、希望に沿うように努めている。しかし疾病によっては家族と協議し、医療機関や受診を決定することもある。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医療機関への受診については、家族だけではなく必ず職員同行のもと、ホームでの様子を伝えながら、相談できる体制作りができています。	○	まだ一部の職員にしか同行できていないのが現状であり、勉強会によりシュミレーションを行いながら受診同行できる体制を作りたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関の外来看護師と相談し合える関係作りができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院に向けてのムンテラや医療機関よりの申し送り・入院先においての状況等を確認する等の連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	看取りについての指針は現在まだ作成されていない。医療連携加算も受けておらず、医療的処置が必要となった場合は退居説明をしている。	○	今後は看取りについての指針を作成し取り組んでいく方向である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	「できること・できないこと」の見極めは元より、医療と福祉の連携は必要不可欠であり、連携のもと総合的な支援に努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	在宅復帰や他の施設に移住される場合、移住先関係者との申し送り、プランの引き継ぎを実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	敬意ある言葉使いに努めている。個人情報取り扱い指針に基づき個人情報を管理している。	○	接遇については今後もグループワーク(OJT)や勉強会で取り組んでいきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意図的な感情表出の原則でコミュニケーション技術を使いながら働きかけている。また最良の自己決定ができるように援助を行っている。	○	コミュニケーション技法の勉強会等を行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の言葉や状態に合わせて、それぞれ好きな時間を過ごして頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみ・服装等は個々の好みに応じ、理容・美容は家族やボランティアと連携して、本人の希望に沿った対応を行っている。	○	理美容店の希望有無を確認し、家族と連携しながら本人の望む店舗へお連れしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力・生活習慣に応じ、食事の準備を一緒にやり片付けにおいても同様の対応を行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個人の嗜好品については、本人・家族の意向を伺い、経済状況及び疾患などを踏まえ支援を行っている。	○	喫煙や飲酒をされる方がいたり、買い物にて好きなものを購入されている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄状況を把握しており、それぞれに応じた援助を行っている。	○	時間や入居者の行動(サイン)に合わせて支援している。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個人の要望に応じた時間・曜日に入浴を行っている。毎回、湯船のお湯は入れ替えている。	○	入浴チェック表も用い、適時声かけを行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の生活習慣やその日の状況に応じて、安息・安静・入眠の促し等を行っている。	○	職員と一緒に休んだり、休息場所を変えたり状態に応じて柔軟に対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人・家族より、それぞれ生活歴のアセスメントを行い、以前の趣味や生活習慣、仕事など本人にとって役割や楽しみと感じているものを見出し援助している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人がお金を管理する取り組みはされておらず、すべて事業所建て替えのシステムをしている。しかし本人へはお金を預かっているから必要な時には出せることを伝えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物など個別の要望や気分に応じた外出に対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	自宅や里帰り、食事、日帰り旅行等の支援を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々の能力に応じて、可能な限り利用していただくように支援している。	○	家族からの電話の取り次ぎなども行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限はしておらず、気軽にまた次も来て頂けるように対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議により「介護保険法」「グループホーム法令遵守」の勉強会に取り組み、現場での支援に活かしている。	○	転倒のリスクが高い方については、毎月のカンファレンスにより意見交換を行っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜 20:00～朝 7:00 までは防犯のため鍵をかけている。鍵をかけず閉じ込めないケアを職員へ理解してもらい取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の所在確認や状態把握を常に職員間で情報共有を行っている。夜間は 2 時間おきに安否確認を全入居者へ行っている。	○	記録を用いて定期的に確実に安否確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	課題については原因の追及を行い、まずは要因を解決するように取り組んでいる。本人、家族への説明を行い、理解に基づき個々の能力に合わせた対応をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月行われる勉強会でも取り上げている。事故やヒヤリはつとがあれば、書類へ記入してもらい再発防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急マニュアルを作成し設置している。また勉強会を通じて対応がおこなえる体制を整えている。	○	勉強会には、職員のみならず消防署や地域の方を招いて交流を深めながら学んでいける体制を整えていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法令でも取り決められている消防訓練等を防火管理者を設置し行っている。消防署にも実際に来て頂き指導していただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時には家族へリスクの説明を行い理解をもらい契約させてもらっている。また課題発生時はカンファレンス等で説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行っている。異常があれば看護師へ連絡し意見を伺うとともに、かかりつけ医との連携をスムーズに行える体制作りができています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効用・副作用については個人ファイルへ情報は管理されており、特に注意しなければいけない薬であったり、追加処方された薬についてはドクターノートの参照を全職員ができています。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食材に植物繊維が多い物を使用したり水分補給に努めている。	○	ケース記録の別欄に最終排便の記載を設け職員の意識を高めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の保清に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェックは毎食行っているも、水分量の正確な摂取量は行なっていない。しかし脱水が疑われたり危険性の高い方にはケース記録へ記載するよう心がけている。	○	今後、水分チェック表が必要かどうかについては検討していく予定。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染や食中毒の内容のマニュアル作成をしており予防策の実施・徹底に取り組んでいる。	○	今後は保険所の保健師等にも相談し事業所内研修として講師に来て頂くことも検討している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の発生について職員は常に意識をし衛生管理に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	表札を掲げ、デットスペースを活用した面会空間作りを行っている。	○	プランターを設置したり更なるアットホームな空間作りを目指したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	手作りのインテリアやテーブルや玄関に季節の花を飾っている。また建築の段階で、音や光の対策を考えながら行った。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間においてはデットスペースがないが、鍵付きの居室の活用と、リビングから出た事務所前の共有スペースの活用を行っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、本人・家族と協議しながら、使い慣れたものを持ってきていただき、居室のレイアウトを行っている。状態に応じ、家族と連携し配置替え等を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気に努め、職員の体温温度に合わせるのではなく、ご入居者の体温温度に合わせるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー構造の造りとなっており、手すりの高さや配置を考えながら設置している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立し て暮らせるように工夫している。	表札や表示を用いた環境作りを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるよ うに活かしている。	建物の裏庭へ農園スペースを入居者と一緒に作 り栽培している。また建物の前のコンビニへ買 い物に行く際に、町と相談し横断歩道の設置を 行った。		

V サービスの成果に関する項目 ひだまり

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① <u>毎日ある</u> ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ <u>利用者の1/3くらいが</u> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ <u>利用者の1/3くらいが</u> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人としての理念を基本とし、当ホーム独自の理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員一人ひとりの理念に対する理解・認識を常に自覚するように、個別の勉強会も行いながら日々のケアの中で理念の具体化と徹底を目指している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議にはご家族へ声をかけ、順に出席していただき当ホームのサービス内容を知っていただくようにしている。	○	当ホームから地域へ顔を出すことは、行事の時程度であり、地域へ語る場を今後は作っていきたい。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の散歩の際や買い物の際は積極的に挨拶や会話を心がけ行っている。	○	気軽に地域の方が立ち寄られる事実がないこともあり、今後は更なる地域との関係性を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事には必ず参加しており、地域の方から声をかけて頂いている。また、当ホームの企画する行事にも地域の方を誘い参加していただいている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	社会福祉協議会の主催による、地域作りの参加を職員は積極的に参加している。法人理念にもある「地域の絆を大切に」を心がけ、地域に貢献できる話し合いをしている。	○	地域に向けた勉強会やサロン等に出向き、当ホームの趣旨や取り組みを伝えていきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員へ説明し、自己の振り返りに役立てている。	○	今回初めての外部評価を受け、更なる改善や具体的な取り組みを職員と話し合いながら進めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に2月に1回開催されており、その時期に議題へあがった地域の方々(消防・警察)へお越しいただき意見交換を行っている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	法令遵守や制度の理解についての疑問があれば電話連絡できる体制を整えている。運営推進会議へは毎回出席いただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	対象者がいないこともあり、権利擁護並びに成年後見制度等の勉強会はまだできていない。	○	毎月開催される勉強会に今後はこの項目も取り組んでいく予定である。社会福祉協議会の「かけはし」職員へ講義の依頼をする予定。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月一回の勉強会へもこの項目は取り上げ勉強会を行っている。また職員へのストレス度も考え、定期的に職員の気持ちに引き出せる体制作りを行っている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書を用いて、相手の理解度を確認しながら契約を結んでいる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情受け付け(ご意見)箱の設置を行い、運営推進会議では外部での苦情内容があれば報告する体制を整えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時や電話連絡など、個々の状況に合わせた報告を行っている。金銭などについては随時電話連絡をするようにしている。	○	当ホームの新聞作りがまだ始められておらず、入居者様の暮らしの様子が反映される新聞作りをしたいと考えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族との接触時に、そのつど意見の確認を心がけており、意見があれば反映している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度ホーム内で職員会議を開催し、意見交換並びに方向性の確認を行うようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況や体調の変化に伴い、話し合いを設け時間調整や人員体制の調整を図っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者が馴染みの職員による支援が受けれるように配慮し、配置を行っている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人として研修委員会が設立されており定期的 に開催されている。また当ホーム内においても、 年間研修を計画し取り組んでいる。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人グループ内の各事業所との交流(イベン ト・勉強会)へ定期的に参加できている。また他 法人の見学へ行ったり来てもらったり交流を深 めたり開拓する努力をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員個々の話を聞くことができる体制を確立し ており、各自個人ノートを所持しその活用も行 いストレスケアをおこなっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	他事業所との交流や外部研修などへ積極的に参 加してもらい自己のスキルアップを図るととも にモチベーションサポートに努めている。	○	勤務状況の都合や個々の事情により、すべ ての職員が参加している状態ではなく、 個々の話し合いで意見交換し合いながらモ チベーションサポートしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談があれば、初回面談として本人と会い直接話をする体制を整えている。また利用に至るまでの経過の際に、電話連絡するなどして状況把握に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初回相談の際は、なるべく傾聴に心がける体制を作っている。また利用に至るまでの経過の際にも、電話連絡するなどして状況把握に努めている。	○	担当者が不在の場合にも、他職員ができる範囲での対応ができる組織作りに心がけていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	併設として小規模多機能型サービスがあり、そちらのサービスも踏まえたお話をさせて頂いている。また、他の事業所との連携を図り情報提供を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居が決まれば、まず部屋作りを家族にしている。	○	本人の状態や状況により、本人が安心して納得して入居するケースは少ない中でも、馴染みの空間作りや刺激の強弱を考えたホーム作りを心がけていきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活を大切にし、その方の生活の継続性の観点から支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状態を確認しながら、家族へ連絡し面会へ来ていただいたり、外出などの配慮をしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人・家族それぞれ生活歴のアセスメントを行い、関係性の理解に努めポイントを見極め支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が一番安心する場所の把握に努め、その場所を引き離さない支援に努めている。また家族の協力により、希望された外出支援をおこなっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の性格、疾患、地域性や歴史などを踏まえて関係性に努めている。それによって個々の性格や調子に合わせて、独りの時間も大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院して退所された方へのお見舞いへ定期的に伺い家族とも経過報告を受けるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族より、日常生活についての希望を伺い、その希望に添えるように支援をおこなっている。	○	起床・就寝・食事・入浴時間など本人の声に合わせて随時柔軟に対応しているが、常に日々の自己決定に努めていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式をアレンジしたアセスメントシートを用いて、入居前後の状況に応じて聞き取りを、本人や家族からも行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活状況を毎日記録し、状況の変化の把握に努めている。自立支援の観点より法人内の専門職と連携・協力し残存能力の見極めを行っている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケースカンファレンスを開催し計画書を作成、本人もしくは家族にサインをいただいている。	○	家族がケースカンファレンスに参加されない場合も多いので今後の課題として取り上げていきたい。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月に一回のモニタリングを行い、計画の見直しをし本人または家族へサインを頂いている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努め、申し送りノートも活用し、実践やケア計画に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設事業所のメリットを活かし、行事などはデイサービスと合同で行ったりしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議等でインフォーマルなところへも声をかけ支援できる体制を作っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	在宅復帰に向けての取り組み時は、情報提供を含め協力し行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見人制度やかけはしについての相談の事例があり、今後の協働についても引き続き行っていけるように努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に本人及び家族の希望を確認し、希望に沿うように努めている。しかし疾病によっては家族と協議し、医療機関や受診を決定することもある。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医療機関への受診については、家族だけではなく必ず職員同行のもと、ホームでの様子を伝えながら、相談できる体制作りができています。	○	まだ一部の職員にしか同行できていないのが現状であり、勉強会によりシュミレーションを行いながら受診同行できる体制を作りたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関の外来看護師と相談し合える関係作りができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院に向けてのムンテラや医療機関よりの申し送り・入院先においての状況等を確認する等の連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	看取りについての指針は現在まだ作成されていない。医療連携加算も受けておらず、医療的処置が必要となった場合は退居説明をしている。	○	今後は看取りについての指針を作成し取り組んでいく方向である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	「できること・できないこと」の見極めは元より、医療と福祉の連携は必要不可欠であり、連携のもと総合的な支援に努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	在宅復帰や他の施設に移住される場合、移住先関係者との申し送り、プランの引き継ぎを実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	敬意ある言葉使いに努めている。個人情報取り扱い指針に基づき個人情報を管理している。	○	接遇については今後もグループワーク(OJT)や勉強会で取り組んでいきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意図的な感情表出の原則でコミュニケーション技術を使いながら働きかけている。また最良の自己決定ができるように援助を行っている。	○	コミュニケーション技法の勉強会等を行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の言葉や状態に合わせて、それぞれ好きな時間を過ごして頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみ・服装等は個々の好みに応じ、理容・美容は家族やボランティアと連携して、本人の希望に沿った対応を行っている。	○	理美容店の希望有無を確認し、家族と連携しながら本人の望む店舗へお連れしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力・生活習慣に応じ、食事の準備を一緒にやり片付けにおいても同様の対応を行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個人の嗜好品については、本人・家族の意向を伺い、経済状況及び疾患などを踏まえ支援を行っている。	○	喫煙や飲酒をされる方がいたり、買い物にて好きなものを購入されている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄状況を把握しており、それぞれに応じた援助を行っている。	○	時間や入居者の行動(サイン)に合わせて支援している。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個人の要望に応じた時間・曜日に入浴を行っている。毎回、湯船のお湯は入れ替えている。	○	入浴チェック表も用い、適時声かけを行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の生活習慣やその日の状況に応じて、安息・安静・入眠の促し等を行っている。	○	職員と一緒に休んだり、休息場所を変えたり状態に応じて柔軟に対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人・家族より、それぞれ生活歴のアセスメントを行い、以前の趣味や生活習慣、仕事など本人にとって役割や楽しみと感じているものを見出し援助している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人がお金を管理する取り組みはされておらず、すべて事業所建て替えのシステムをしている。しかし本人へはお金を預かっているから必要な時には出せることを伝えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物など個別の要望や気分に応じた外出に対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	自宅や里帰り、食事、日帰り旅行等の支援を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々の能力に応じて、可能な限り利用していただくように支援している。	○	家族からの電話の取り次ぎなども行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限はしておらず、気軽にまた次も来て頂けるように対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議により「介護保険法」「グループホーム法令遵守」の勉強会に取り組み、現場での支援に活かしている。	○	転倒のリスクが高い方については、毎月のカンファレンスにより意見交換を行っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜 20:00～朝 7:00 までは防犯のため鍵をかけている。鍵をかけず閉じ込めないケアを職員へ理解してもらい取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の所在確認や状態把握を常に職員間で情報共有を行っている。夜間は 2 時間おきに安否確認を全入居者へ行っている。	○	記録を用いて定期的に確実に安否確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	課題については原因の追及を行い、まずは要因を解決するように取り組んでいる。本人、家族への説明を行い、理解に基づき個々の能力に合わせた対応をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月行われる勉強会でも取り上げている。事故やヒヤリはつとがあれば、書類へ記入してもらい再発防止に努めている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急マニュアルを作成し設置している。また勉強会を通じて対応がおこなえる体制を整えている。	○	勉強会には、職員のみならず消防署や地域の方を招いて交流を深めながら学んでいける体制を整えていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法令でも取り決められている消防訓練等を防火管理者を設置し行っている。消防署にも実際に来て頂き指導していただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時には家族へリスクの説明を行い理解をもらい契約させてもらっている。また課題発生時はカンファレンス等で説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行っている。異常があれば看護師へ連絡し意見を伺うとともに、かかりつけ医との連携をスムーズに行える体制作りができています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効用・副作用については個人ファイルへ情報は管理されており、特に注意しなければいけない薬であったり、追加処方された薬についてはドクターノートの参照を全職員ができています。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食材に植物繊維が多い物を使用したり水分補給に努めている。	○	ケース記録の別欄に最終排便の記載を設け職員の意識を高めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の保清に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェックは毎食行っているも、水分量の正確な摂取量は行なっていない。しかし脱水が疑われたり危険性の高い方にはケース記録へ記載するよう心がけている。	○	今後、水分チェック表が必要かどうかについては検討していく予定。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染や食中毒の内容のマニュアル作成をしており予防策の実施・徹底に取り組んでいる。	○	今後は保険所の保健師等にも相談し事業所内研修として講師に来て頂くことも検討している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の発生について職員は常に意識をし衛生管理に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	表札を掲げ、デットスペースを活用した面会空間作りを行っている。	○	プランターを設置したり更なるアットホームな空間作りを目指したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	手作りのインテリアやテーブルや玄関に季節の花を飾っている。また建築の段階で、音や光の対策を考えながら行った。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間においてはデットスペースがないが、鍵付きの居室の活用と、リビングから出た事務所前の共有スペースの活用を行っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、本人・家族と協議しながら、使い慣れたものを持ってきていただき、居室のレイアウトを行っている。状態に応じ、家族と連携し配置替え等を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気に努め、職員の体温温度に合わせるのではなく、ご入居者の体温温度に合わせるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー構造の造りとなっており、手すりの高さや配置を考えながら設置している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立し て暮らせるように工夫している。	表札や表示を用いた環境作りを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるよ うに活かしている。	建物の裏庭へ農園スペースを入居者と一緒に作 り栽培している。また建物の前のコンビニへ買 い物に行く際に、町と相談し横断歩道の設置を 行った。		

V サービスの成果に関する項目ほのぼの

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目